

2025

九州大学病院 国際医療部 2025 年度活動報告

発行 2026年6月
監修 森山 智彦 / 工藤 孔梨子
編集 松田 沙織 / 大山 明子 / 上田 真太郎
制作 黒澤 茂樹
事務局 〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学病院 国際医療部
WEB: <https://plaza.umin.ac.jp/imed/>



海外交流センター
TEL: 092-642-4439
WEB: <http://plaza.umin.ac.jp/ovex/>



アジア遠隔医療開発センター
TEL: 092-642-5014
WEB: <https://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/>



国際診療支援センター
TEL: 092-642-4231
WEB: <https://plaza.umin.ac.jp/ipac/>



～ 変化する時代への対応 ～

皆様もご存じの通り、この1年間はグローバルにとっても大きな変化がありました。ロシア・ウクライナ戦争やガザ・イスラエル紛争は継続していますが、日本では中国との関係悪化がありました。この数年来の尖閣問題がくすぶる中で、高市早苗総理大臣の台湾問題を巡る「存立危機発言」に対する中国側の強い反応、米国によるベネズエラやイランへの攻撃、それに伴う日本への直接・間接的な影響が今も進んでいます。

これらの大きな変化の中で、特に中国からの双方向の人流が医療・医学の分野でも著しく停滞しました。また、海外のインフレーションおよび円安に伴う、海外活動コストの増大もあり、これらは、国際医療部 (iMed) の3センター、つまり海外交流センター (OVEX)、アジア遠隔医療開発センター (TEMDEC)、国際診療支援センター (IPAC) 活動のいずれもが大きな影響を受けることとなりました。本当に一寸先は闇、ということを実感します。

では、iMedの活動は縮小するべきか、というと全く逆だと考えています。このような時代の変化の根本的な原因と全体的な流れを考えつつ、未来を戦略的に見据えて方向性を柔軟に調整するべきでしょう。連携先/国は固定しすぎず、広い視野を持って、状況に応じて連携の強弱を変

化させる、というのはレアアース等の資源の一極集中からの離脱にも似ています。特に九州大学病院はiMedの持つ強みを生かして、OVEX、TEMDEC、IPACが有機的に連携し、新しい化学反応を生み出すこともできるでしょう。さらには、九州大学全体が、アジアに近い地の利から様々な国際活動を推進していますので、それらとの連携を進め、オール九州大学としてより効果的な活動につなげることができることも有利な点だと思います。

新しい時代への推進を担当すべき大学組織の一部でもあるiMedの役割として、単なる国際活動の蓄積ということに限らず、様々な外的な変化をも利用して、新規のイノベーションを創出することがあると考えています。iMedはこれまでもその成果を発信してきましたが、さらにこれから5年、10年後にいかに変化できるか、が楽しみです。





九州大学病院 副病院長
国際医療部長
中島 直樹




九州大学病院 国際医療部

2025 年度活動報告

はじめに	1
特集	2
ハイライト	3
トピックス	
OVEX	9
TEMDEC	10
IPAC	11
プロジェクト一覧	12
メンバー	13

九州大学病院 国際医療部 (iMed)

海外交流センター (OVEX)	アジア遠隔医療開発センター (TEMDEC)	国際診療支援センター (IPAC)
医療スタッフの派遣・受入	遠隔教育	外国人患者受入
人材育成	技術開発	通訳・翻訳
		

Portable Health Clinic(PHC)プロジェクトにおける 母子保健(MCH)活動のアフリカでの拡大

PHCシステムは、バングラデシュのグラミン・コミュニケーションズと九州大学との共同開発により誕生しました。近年、PHCシステムのMCHモジュールは、妊産婦死亡率および乳児死亡率が依然として高い低所得国において、妊娠期から産後期の継続的なケア(ANCおよびPNC)を確保する有効な手段として、注目を集めています。PHCシステムはモジュール型設計を採用しており、携帯型超音波装置、ドップラー機器、乳児用体重計などのMCH関連機器を基本プラットフォームに追加することで、PHCアプリケーションを柔軟にカスタマイズし、包括的なMCHシステムへと拡張することが可能です。



地域保健員が妊婦の家に訪問し、
都市の産婦人科医につなぐ



PHCプロジェクトにおける最初のMCHプロジェクトは、2019年にバングラデシュの農村地域で開始され、その後の取り組みの基盤となりました。2023年にはNPO法人ロシナンテスとの協働で、ザンビアにおける新たなMCHプロジェクトへとつながり、パイロット事業を実施しました。この成果を踏まえ、現在はザンビアのEden大学と連携し次のフェーズを進めています。

最近の動向として、2025年8月に横浜で開催されたアフリカ開発会議(TICAD9)の期間中に、「ポータブル・ヘルス・クリニック(PHC)によるアフリカでの母子保健管理の飛躍」シンポジウムをロシナンテス、長崎大学、大阪大学と共に開催しました。本シンポジウムには、九州大学総長の石橋 達朗氏、元外務大臣の上川 陽子氏、および元厚生労働大臣の武見 敬三氏をはじめとする著名な来賓が出席しました。さらに、エジプト保健・人口副大臣、スーダンおよびザンビアの駐日大使などのハイレベルな代表者も特別ゲストとして参加しました。その後、九州大学とスーダンは、同国におけるPHCサービスの拡大を推進するための基本合意書を締結しました。さらに、2025年10月には、国連人口基金の支援を受けて、スーダンにおいてもMCHプロジェクトが開始され、現在パイロットプログラムが進行しています。このスーダンのプロジェクトでは、ロシナンテスと Alzaiem Alazhari 大学が現地実施パートナーを務めています。



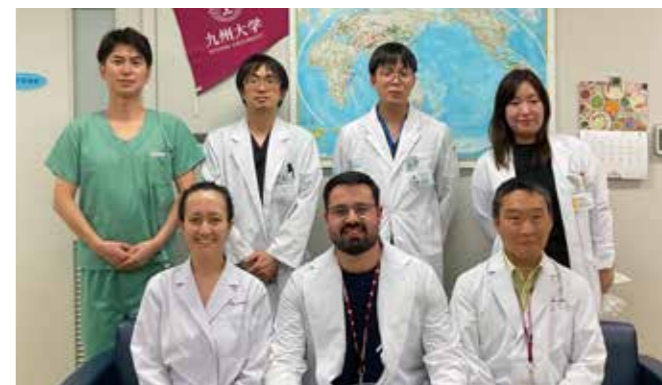
九州大学とスーダンのアフリカ開発会議(TICAD9)シンポジウム
における基本合意書の締結

これらの取り組みはOVEX活動の一環として実施しており、情報技術を活用して開発途上国の農村地域における医療サービスへのアクセス拡大を目指しています。現在、私たちの研究チームはエジプトにおいて農村コミュニティレベルでのサービス拡大を目指し、同国の4つの大学および保健・人口省と連携して活動を進めています。

5月 アルゼンチン・ブラジルより医師を受入

OVEX

2018年度より実施している国際協力機構(JICA)日系社会研修員受入事業「早期胃癌の内視鏡診断と治療」において、2025年度はアルゼンチンとブラジルより内視鏡医2名を受入れた。研修員は診療の見学、シミュレーターやブタ切除胃を用いた実習を通じ、早期消化管癌の治療技術とコツを習得した。週末には各自のルーツの地を訪れ親族と交流する機会もあり、中南米の日系コミュニティへの理解を深めた。



5月 イギリスとの海外遠隔医療相談

IPAC TEMDEC

九州大学病院では、海外居住の患者に対し、現地の病院のレポートや画像データをもとに、医師がオンラインで意見を述べる遠隔医療相談を実施している。5月には、イギリス人男性より胃癌多発肝転移に対する治療方針について相談があり、当院医師が欧州臨床腫瘍学会(ESMO)のガイドラインを共有しつつ、患者の病態に沿って全身化学療法の流れを詳細に説明した。2025年度は、イスラエル、中国、アメリカ等から合計7件の相談があった。



6月 ヤロスラブリ内視鏡シンポジウム 2025 でのライブ配信支援

TEMDEC

第24回 ロシアとの内視鏡テレカンファレンスは、ヤロスラブリ内視鏡シンポジウム 2025の一枠として開催された。シンポジウムでは350人以上が参加し、ロシアから15名以上、日本・中国・スイス・スペインから13名の専門家に

よるデモンストレーションが行われた。慢性胃炎と関連病変の2件のライブデモが披露され、海外から参加の専門家と議論した。ライブ配信はヤロスラブリ地域癌病院の内視鏡部門から行われた。



6・7月 中央アジア・コーカサス地域より医師を受入

OVEX

アゼルバイジャン、アルメニア、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、キルギス、タジキスタンから8名を招へいし、JICA国別研修「早期胃癌の内視鏡診断と治療」を実施した。研修員は内視鏡検査の重要性を

理解すると共に、消化器癌の早期発見、診断および治療に関する知識を深めた。数年にわたる本事業の実施により、参加各国間の連携が促進され、遠隔医療を含む継続的教育体制の基盤となる人的ネットワークが構築された。



7月 第60回アジア太平洋先端ネットワーク会議 (APAN60) が香港にて開催

TEMDEC

APAN60の医療ワーキンググループでは内視鏡、外科、眼科、医学教育、医療とAI、感染症など合計17セッションが

ハイブリッドで開催された。16カ国から74件のプレゼンテーションが行われ、19カ国、合計588名が参加した。



7月 第29回日本渡航医学会学術集会参加

IPAC

本学会の主なトピックは感染症やワクチンであるが、海外からの観光客増加に伴う未収金や国際搬送の事例、外国人在留資格の変更、日本の医療保険の不正利用等、九州大学病院が抱える課題に直結する内容の講演が多くあった。医療インバウンドや在留外国人患者を積極的に受け入れようとするクリニックと、紹介を受ける高次病院側、それぞれの意見に相違がみられ、外国人医療に対する視点や考え方は、医療従事者の間でも多岐にわたっていた。

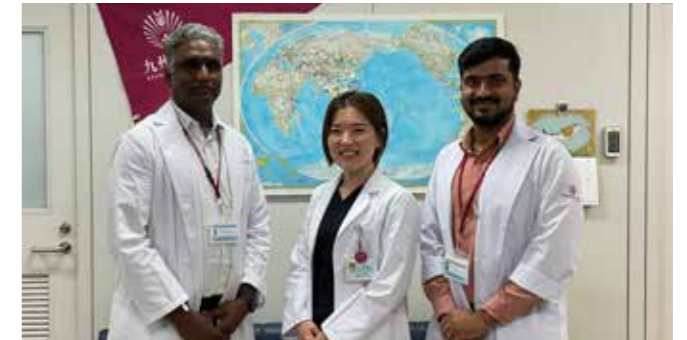


9月 インドより医師を受入

OVEX

JICA2025年度インド国タミル・ナド州非感染性疾患対策プロジェクト「消化器がん治療にかかる能力強化研修」において国際開発センター (IDCJ) より委託を受け、腫瘍外科医2名、消化器外科医2名が九州大学病院の臨床・腫

瘍外科にて研修を行った。ロボット支援手術や腹腔鏡手術の見学、ミニレクチャーや症例検討を通して消化器がん治療に対する知識を深めた。



10月 オーストラリアから研究者招へい

TEMDEC

TEMDECは、日本学術振興会 (JSPS) 外国人招へい研究者事業における採択を受け、オーストラリアのクイーンズランド大学オンラインヘルスセンター Sisira Edirippulige 准教授を迎えた。「わが国の医学教育にお

ける情報・科学技術を活かす能力と資質に関するニーズ調査」について、2か月間に渡ってスコーピングレビューと質的研究を実施し、非常に有意義な機会となった。



11月 モンゴルとの超音波内視鏡ライブ

TEMDEC

九州大学病院で研修を受けた日本モンゴル病院の医師からの要望を受け、帰国後の超音波内視鏡検査 (EUS) 実施時における遠隔指導の実現可能性について、九州大学

病院医師と検討を行った。TEMDECで以前、技術研修を受けた現地のエンジニアと連携し、第1回目の遠隔指導を行った。今回の遠隔指導を通じて得られた知見や課題を今後の取り組みに活用する。



11月 第3回 ケニアとの内視鏡研修報告会

OVEX TEMDEC

オリンパス株式会社が受託しているJIHS医療技術等国際展開推進事業の活動の一環としてケニア・日本間での遠隔会議を実施した。2025年度の活動を振り返り、両国医師が胃・食道癌や、希少な胃梅毒について症例検討を行っ

た。最後に九州大学病院で研修を受けたケニア人医師から研修内容とその成果についてケニア国内の関係者に報告を行った。本会議に先立ち、来日中のケニア人医師がトレーニングを受ける様子をメディアに公開した。



11月 森山智彦副部長がトルコ・トルクメニスタンを訪問

OVEX TEMDEC

森山智彦副部長は、遠隔医療教育を含めた今後のさらなる協働について話し合うため、トルコを訪問した。また、トルクメニスタンでは、国内の様々な都市から集まった約30名の内視鏡医を対象として、豚の胃と食道を用いた内

視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)ハンズオントレーニングを行った。トルクメニスタンでのトレーニングの様子はトルクメニスタン保健省などのウェブサイトに掲載された。



12月 2025年度医療・デザインプロジェクト 最終発表会

TEMDEC

2025年度プロジェクトの最終報告を実施した。神経内科と連携し、パーキンソン病患者の歩行に関する課題について、学生が考案した靴、二本杖、アプリ、歩行器などのプロトタイプが提案された。今年度は患者を対象とした実証も行われ、より現実に即した完成度の高いプロト

タイプが制作された。神経内科、リハビリテーション部やARO次世代医療センター、医療施設の医療スタッフや研究者から評価をいただき、有意義な機会となった。



12月 第10回国際臨床医学会学術集会を開催

OVEX TEMDEC IPAC

12月6日、本学会を九州大学医学部百年講堂で開催した。中島直樹大会長のもと357名が参加し、多文化共生社会における国際医療をテーマに、医師・看護師・医療通訳・事務職など多職種が、インバウンド/アウトバウンド、未収金、

皆保険制度、精神科通訳、デジタルヘルス、グローバルヘルス関連学会の理事長対談を通して、医療現場で直面する課題や、受け入れ体制の在り方を共有するとともに、多様な立場から今後の連携と実践の糸口を探った。

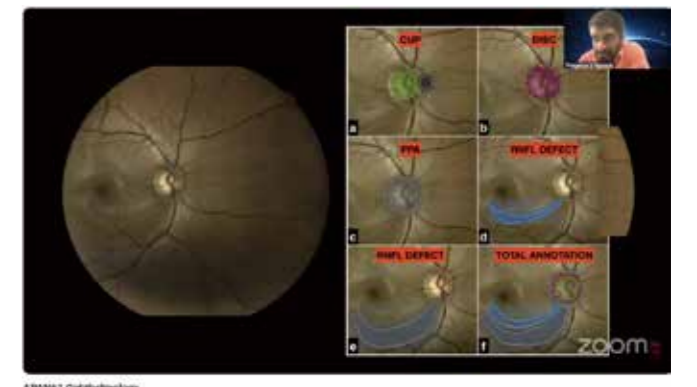


1月 第61回アジア太平洋先端ネットワーク会議(APAN61)がバンラデシュにて開催

TEMDEC

APAN61の医療ワーキンググループでは内視鏡、外科、眼科、病理、地域医療、医学教育、歯科、生成AIなど合計19セッションがオンラインで開催された。15カ国から79件のプレゼンテーションが行われ、17カ国、合計705名が参加した。

セッションがオンラインで開催された。15カ国から79件のプレゼンテーションが行われ、17カ国、合計705名が参加した。



2月 モンゴルより医師を受入

モンゴル国立医科学大学モンゴル日本病院との長年にわたる交流を背景に、2025年度は内視鏡医3名と放射線医1名を受入れて研修を実施した。消化器疾患診療における人材育成やチーム医療の重要性が現地において認識されていることがわかり、これまでの遠隔医療教育や協働プロジェクトの成果を再確認できた。九州大学とモンゴル国立医科学大学は2024年より協定を締結しており、他分野を含めた更なる交流が期待される。



OVEX

3月 第9回国際化フォーラムのハイブリッド開催

薬学研究院 Jose Caaveiro 教授が担当し、「第9回 医系地区国際化フォーラム」が実施された。九州大学病院、医学研究院、

薬学研究院、保健学部門、歯学研究院の国際化担当者が、この1年間のそれぞれの国際化に向けた取り組みを発表した。

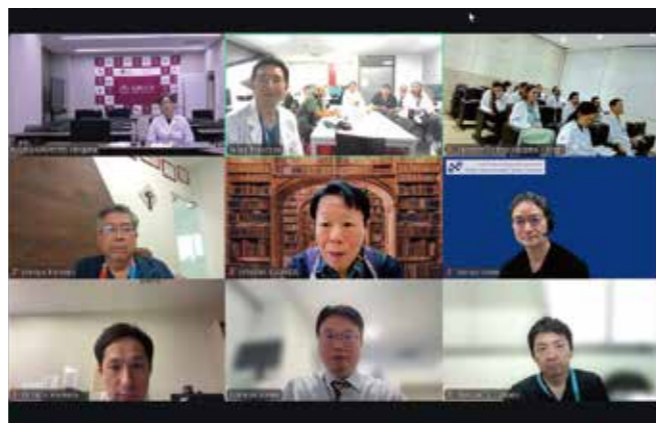


OVEX TEMDEC IPAC

3月 第38回ラテンアメリカテレカンファレンス

今回のカンファレンスでは近畿大学と大阪国際がんセンターから、それぞれ大変興味深い形態を呈した貴重な症例が提示された。いずれの症例も、美しい内視鏡写真を基に、参加者から多くの意見が出て、充実した討論がなされた。参加者全

員が、正しい診断に到達することよりも、細かな内視鏡所見を拾い上げて正しく評価し、全員で意見を出し合うことの重要性を認識できた、とても素晴らしい症例検討会となった。



TEMDEC

フィリピンにおける消化器がん専門医の人材育成事業

本事業は、JIHS国際医療技術等展開推進事業の一環として実施され、日本の高度ながん診断・治療技術を基盤に、早期診断システムの構築と人材育成を目的とし

ている。内視鏡診断・治療、腹腔鏡手術、遠隔医療教育を組み合わせることで、持続可能な医療体制の確立と医療水準の向上に貢献することを目指している。

本邦研修 では、フィリピンの医師を2回にわたり受け入れ（研修者8名・管理者6名）、内視鏡診断および腹腔鏡手術に関する最新の知識と技術の習得を目的とした臨床見学および実習を実施した。手術見学、シミュレーシ

ョン教育、症例検討を通じて実践的理解を深めると共に、日本の医療システムやチーム医療の概念についても学習した。これにより、帰国後の診療への応用が促進された。



現地研修 では、専門医をフィリピンへ派遣し、内視鏡および腹腔鏡手術の技術指導を行った。術前カンファレンス、ライブ手術、シミュレーション教育を通じて実践

的な技術移転を推進し、現地医師による手術実施体制の構築を支援した。また、症例検討会や遠隔教育を併用し、継続的な教育体制の確立と医療の質向上に寄与した。



海外交流センター 2025年度の実績

受入

研修	病院見学
28 カ国 43 施設	8 回
計 71 名	計 56 名
医師 70 名	
技術者 1 名	

派遣

技術指導 / 施設訪問
10 カ国 29 施設
計 35 名
医師 25 名
技術者 3 名
歯科医師 3 名
事務 3 名
臨床工学技士 1 名

英語研修

九州大学病院教職員の英語コミュニケーション能力向上を目的に、半年の講習を行った。スピーキングクラスを中心に、TOEICクラス、部署別クラスを設け、90名が受講した。

360度動画を使った教材開発の試み

パンデミックや学び方の多様化により、動画を使った医療者教育・研修が行われるようになったが、一般的な二次元の動画では伝えられる情報に限界があった。この点、カメラ位置から全方向の映像を記録し、視聴者が自由に視点を変えられる360度動画の活用が期待される。TEMDECでは、360度映像を用いた医療教材の開発を試みている。一例として手術室看護教材(写真左下)がある。手術室で看護師は医師・医療器材の位置と動きを理解し、迅速かつスムーズに器材出しを行う必要がある。しかしそれらの配置や動作は手術室のレイアウトや術式によって異なるうえ、既存の教材は写真や文章によるものが主であるため、看護学生や若手看護師にとってスキルを習

得するには多くの時間と経験を必要としていた。この特殊な状況を理解し学ぶためには高い臨場感、立体感、没入感のある360度映像が効果的である。これまで看護学生向けの教材を制作し実際に使ったところ、実習に向かう心の準備と手術室内の器材の配置やスタッフの位置関係の理解が向上した[1]。看護学生の実習前の不安を軽減し、現場への深い理解を促すことにつながった。また、内視鏡映像と医師の手元の映像をPinP (Picture in Picture) で合成するなど、様々な視点を全方向映像に埋め込むことで、より効率の良い内視鏡教材も制作した(写真右下)。映像表現の工夫を重ね、さらに充実した医療教材の制作につなげていく。

[1] Nagayoshi K, Hisada Y, Kudo K, et al., Nurse Education Today. 2026; 158: 106944



手術室における器械出しの360度映像(映像の一方)



内視鏡室の360度映像にPinPで合成

アジア遠隔医療開発センター 2025年度の実績

44カ国 330施設 120イベント・新規接続117施設(31カ国) / オンライン診療5件

イベントコンテンツ一覧(イベント回数順)

その他(医療)	内視鏡	腫瘍学	外科	血液
テクノロジー	神経内科	保健	一般内科	ロボット
その他(医療以外)	ナース	感染症	腎臓内科	眼科
難病	救急	歯科	薬学	東洋医学
小児外科	学生	医療情報	遠隔医療	病理
整形外科	精神科	耳鼻科	産科 婦人科	

4度目のJMIP認証



九州大学病院は、厚生労働省の事業に基づくJMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)について、2017年に全国で2番目となる認証を受けて以降、3年毎に更新審査を受けている。2025年12月更新審査を受審、2026年3月に4回目となる認証を取得した。本認証の更新を、外国人患者を安全

かつ円滑に受け入れるための九州大学病院内環境および体制を見直す重要な機会と位置づけている。今回の更新にあたっては、主な対象であった眼科の外来および病棟をはじめ、検査部、放射線部、栄養管理室、患者サービス課などの関係部署と連携し、各種マニュアルや同意書、ホームページの更新を行った。さらに、新たな取り組みとして、異文化理解に関する啓発活動や、外国人患者対応に関する全職種対象のアンケート調査を実施し、その内容をJMIP認定調査員に共有した。JMIP審査時に得られた助言や意見を踏まえ、九州大学病院全体で課題や改善点の認識を深め、今後の体制整備に活かしていく。

キリスト教に関する動画YouTube配信開始



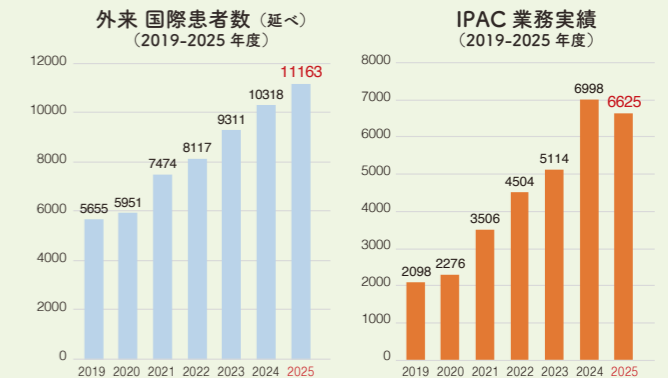
2024年度に配信を開始したイスラム教、ヒンドゥー教に続き、九州大学病院の外国人患者層のうち最も割合の高いキリスト教について調査を行い、医療従事者向けの動画を作成した。2025年11月より九州大学病院公式YouTubeチャンネルにて公開している。



配信動画はこちら

国際患者増加と国際診療支援センター(IPAC)の業務実績

九州大学病院の国際患者数は年々増加しており、訪日患者についても、昨今の不安定な国際情勢の中にあってもなお、治療を目的とした渡航受診患者が多く来院している。IPACでは、特に海外から来日する国際患者の受入れに関する相談・調整や、院内における安全な受入体制の構築に注力した。また、希少言語対応を必要とする患者の増加を踏まえ、通訳タブレット端末の増設を行った。



訪日患者 時間外受診に関わる対応方針の策定



新型コロナ収束後の急激な訪日外国人旅行者増加に伴い、日本の公的保険をもたない旅行者の医療機関緊急受診も増加している。高額未収を含む様々な課題に対応するた

め、診療科や関連部署と協議のうえ、訪日患者時間外受診に関わる対応方針を定め、6月より運用を開始した。対応フローや取得すべき文書、保険がない場合の医療費概算例を九州大学病院内HPに掲示し、活用を推進している。

外部獲得資金による研究プロジェクト

- ◆一般財団法人日本医療教育財団
厚生労働省令和7年度医療通訳者、外国人患者受入れ医療コーディネーター配置等支援事業
医療通訳配置等間接補助事業
中村 雅史
- ◆厚生労働科学研究費
地域医療基盤開発推進研究事業2025 25IA5001
ヘルスケアとセルフケアのプロセス統合DXを目指す戦略的国際標準化
中島 直樹
- ◆JHS医療技術等国際展開推進事業 2025
フィリピンにおける消化器がん専門医の人材育成事業
九州大学 (仲田興平)
- ◆人材育成事業 (エジプト・日本教育パートナーシップ/EJEP)
OJT研修 (臨床修練研修) 2024-25年度
九州大学病院
- ◆JICA 2025年度 国別研修 中央アジア・コーカサス広域研修
早期胃癌の内視鏡診断と治療
森山 智彦
- ◆JICA 2025年度 日系社会研修員受入事業
早期胃癌の内視鏡診断と治療
森山 智彦
- ◆公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
令和7年度 海外研究医受け入れ助成
仲田 興平
- ◆JSPS科学研究費基盤(B) 2023-2026 JP23K25702
アジアにおける遠隔医療教育のためのeラーニング技術研修プログラムの開発と実証
工藤 孔梨子
- ◆JSPS科学研究費挑戦的研究 (萌芽) 2023-2025 JP23K17621
医療とデザインを融合した創造的教育プログラムの開発と実証
工藤 孔梨子
- ◆JSPS 令和7年度 外国人招へい研究者 (短期・第1回)
わが国の医学教育における情報・科学技術を活かす能力と資質に関するニーズ調査
工藤 孔梨子
- ◆JICA2025年度インド国タミル・ナド州非感染性疾患対策プロジェクト (IDCJ委託事業)
消化器がん治療にかかる能力強化研修
永吉 絹子
- ◆JSPS科学研究費基盤(C) 2022-2025 JP22K02858
拡大内視鏡を用いた精緻な早期胃癌診断を世界に普及するための画像品質基準策定
上田 真太郎

- ◆JSPS科学研究費基盤(C) 2024-2027 JP24K06306
全天球カメラを用いた医療コンテンツのオンデマンド配信に関する研究
久田 由紀子
- ◆JSPS科学研究費基盤(C) 2024-2026 JP24K15617
Making Telemedicine More User-Friendly to Make Healthcare Accessible to All
エロクラ ネルミン (中島 直樹) (森山 智彦)
- ◆令和3年度医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業 (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム SATREPS)
ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業
山岡 吉生 (森山 智彦)
- ◆JHS医療技術等国際展開推進事業 2025
ラオスにおける胃癌撲滅のための消化器専門医の育成
NPO法人 胃癌を撲滅する会(HIGAN) (森山 智彦)
- ◆JHS医療技術等国際展開推進事業 2025
ケニアにおける消化器疾患診療の人材育成支援 (内視鏡領域)
オリンパス株式会社 (森山 智彦)
- ◆JSPS令和6年度課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 学術知共創プログラム JPJS00124016566
人口動態予測に基づく空間格差の解消に向けたシナリオ
蕭 耕偉郎 (工藤 孔梨子)
- ◆JSPS科学研究費基盤(C) 2024-2026 JP24K06247
構音訓練に向けた音声器官3次元ビジュアルライズシステムの開発
工藤 達郎 (工藤 孔梨子)

学内研究プロジェクト

- ◆九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS)
産業クラスター ポータブル・ヘルス・クリニック (PHC) モジュール
中島 直樹
- 健康クラスター 遠隔医療モジュール
森山 智彦 (工藤 孔梨子)
- 健康クラスター 健康・医療デザインモジュール
秋田 直繁 (工藤 孔梨子)
- ◆九州大学 未来社会デザイン統括本部
医療・健康ユニット
小柳 悟 (中島 直樹) (森山 智彦) (工藤 孔梨子)
- ◆九州大学 データ駆動イノベーション推進本部
健康医療DX推進部門
中島 直樹 (森山 智彦) (工藤 孔梨子)

iMed



iMed 部長
中島 直樹
教授
副病院長
IPAC センター長



iMed 副部長
森山 智彦
准教授
TEMDEC センター長
OVEX 副センター長
IPAC 副センター長



大西 琴恵
総務課 国際担当
(2025/4~2026/3)



OVEX



OVEX センター長
仲田 興平
准教授
光学医療診療部長



OVEX 副センター長
森山 智彦
准教授
iMed 副部長
TEMDEC センター長
IPAC 副センター長



永吉 絹子
助教
臨床・腫瘍外科



吉住 潤子
医員 (臨床助教)
顔面口腔外科
(2025/4~)



畑中 直子
国際コーディネーター



崎村 由巳子
国際コーディネーター
(~2025/12)



中村 みち子
事務補佐員



TEMDEC



TEMDEC センター長
森山 智彦
准教授
iMed 副部長
OVEX 副センター長
IPAC 副センター長



TEMDEC 副センター長
工藤 孔梨子
講師



永吉 絹子
助教
臨床・腫瘍外科



上田 真太郎
特任講師



久田 由紀子
特任助教



松田 沙織
エンジニア



長峰 史子
国際コーディネーター



和久井 尚子
国際コーディネーター



片山 林太郎
エンジニア
(~2025/9)



黒澤 茂樹
エンジニア
(2025/4~)



大山 明子
事務補佐員



IPAC



IPAC センター長
中島 直樹
教授
副病院長
iMed 部長



IPAC 副センター長
下野 信行
教授
総合診療科



IPAC 副センター長
森山 智彦
准教授
iMed 副部長
TEMDEC センター長
OVEX 副センター長



相良 理香子
助教
専任医師



祁 潔
中国語医療通訳



有田 奈未
英語医療通訳

